【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立武雄青陵中学校
1　前年度 評価結果の概要	・学年または年度によって学力推移調査の成績のばらつきが見られる。授業担当者が替わっても安定した成績を収めることができるように指導体制の確立が求められる。 ・３年次から高校への橋渡しが円滑に進むように、３年次の指導体制を確立する必要がある。 ・地域の中の学校として、地域や保護者の思いや願いに寄り添う姿勢を大切にしながら、地域と共に歩む学校づくりが必要である。地域の中には、様々な教育資源がある。その教育資源を有効に活用しながら、絶え間なく変化する社会の中でたくましく生きる資質・能力を育成することが必要である。
2　学校教育目標	**高い志と未来を切り拓く力をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。**
3　本年度の重点目標	**〇学力向上と進路支援　〇生徒指導の充実　〇中高交流の促進　〇保護者・地域との連携** **〇教職員間の組織力の向上、迅速・誠実・的確な問題解決、効果的な働き方の実践及び法令順守意識の徹底**

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	〇全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●学力推移調査において、GTZを各教科（国・数・英）をB1以上、国・数・英総合評価でA3以上にする。	〇授業評価アンケートを年2回行い、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 〇学力推移調査実施後、教科担当者で結果を分析し、それを全職員で共有し、以降の対策に活かす。	A	〇1学期末に授業評価アンケートを行い、教育指導についての修正点を確認した。 〇第1回の学力推移調査実施後、教科担当者で結果を分析し、今後の具体的取り組み内容について、全職員で共有した。	B	〇学力推移調査の結果を共有することで、教科ごとに課題解決に向けた取り組みを行うことができた。 〇2，3年生は第2回学力推移調査で国英数のGTZ、A3を達成することができた。1年数学はB2であったが、第1回調査からの大きな伸びがみられた。2，3年国語、3年英語でA3であった。	A	〇生徒・保護者の期待に添えるように、授業に工夫を凝らしながら学力向上に取り組んでいる様子がよく伝わりました。 〇学年ごとにばらつきはあるかもしれませんが、伸びが見られるのは大変良い。	総務
	〇「基礎学力」の定着とともに「学び方の基礎基本」を身につけさせる。 〇生徒が自ら考え、主体的な学習ができるようにする。	〇学校評価アンケートにおいて、「授業がわかりやすい」と回答した生徒が90%以上。 〇学校評価アンケートにおいて、「授業を受けるのが楽しい」と回答した生徒が85%以上。 〇学校評価アンケートにおいて、「本校では、ICT機器（電子黒板・学習用PC）が有効に活用されている」と回答した生徒が85%以上。	〇基礎学力を定着するための効果的な授業研究を行い、授業改善に取り組む。 〇ICT機器を効果的に利活用し、学力向上に役立てる。 〇多様な生徒の能力を引き出すために、少人数授業やTT授業を行う。 〇生徒が自ら考え、主体的な学習ができるように、教師は探究的授業を実践する。	A	〇基礎学力が定着するための授業に向けての授業研究を行い、各時のめあてを明確した授業を実施することができた。 〇少人数授業やTT授業を効果的に行い、わかりやすい授業を目指した。 〇場面に応じてICT機器の効果的な使用法を、日々の授業を通じて試行錯誤している。 〇各学期ごとに授業評価アンケートを授業担当者で実施し、その後の授業改善に役立てている。	A	〇英語・数学・理科等で少人数指導やTT授業を行い、目の行き届いた指導を行った。 〇ICT機器を利活用することにより、教育の質を高めた。 〇各学期ごとに授業評価アンケートを実施し、教科担当者の授業に反映させた。 〇学校評価アンケートにおいて、「授業がわかりやすい」と回答した生徒が94．2%、「授業を受けるのが楽しい」と回答した生徒が90．6%、「本校では、ICT機器（電子黒板・学習用PC）が有効に活用されている」と回答した生徒が86．5%であった	A	〇ICTの利活用や授業評価アンケートの実施等、分かりやすい授業の実践や職員の授業力向上に尽力している様子がよく伝わりました。 〇生徒の実態に合わせて、一斉指導や個別指導、また少人数指導や習熟度別指導等、指導形態や学習集団形成の工夫が行われ、学校全体で分かりやすい授業の実践に取り組んでいる様子がよく伝わりました。	教務 総務
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇学校評価アンケートにおいて、「道徳の授業を通じて、思いやりの心や正義感、感動する心を身につけることができた」と回答した生徒が85%以上。	〇「ふれあい道徳」で道徳の授業参観、教育講演会を実施し、生徒・保護者の人権意識を高める。 〇生徒の心の成長に応じて、道徳の授業を計画し、内容を工夫する。	A	〇「ふれあい道徳」で、道徳の授業参観、教育講演会を実施し、生徒・保護者ともに人権意識を高めることができた。 〇学校行事や生徒の心の成長に応じた道徳の授業を計画し、学年で授業研究をしたうえで、工夫した授業を実施することができた。	A	〇学校評価アンケートにおいて、「道徳の授業を通じて、思いやりの心や正義感、感動する心を身につけることができた」と回答した生徒が91.8%であった。 〇道徳の授業においては、各学年で授業研究を十分に行い、工夫した授業を実施することができた。	A	〇学校評価アンケートの結果からも分かるように、全教育活動を通して人権教育に取り組んでいる様子がよく伝わりました。 〇学級通信や学年だよりを読ませていただき、熱心に教育活動を行う姿が窺えました。	総務
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇学校評価アンケートにおいて、「いじめを許さない教育を受けている」と回答した生徒が85%以上。	〇県指定様式による「いじめ・体罰アンケート」を年に2回、学校独自様式による「学校生活アンケート」を年に6回実施する。 〇いじめを積極的に認知し、解決にあたっては組織的に対応する。	B	〇1学期に県指定様式による「いじめ・体罰アンケート」を1回、学校独自様式による「学校生活アンケート」を2回実施し、昨年度の認知件数の約4割のいじめを認知した。 〇認知した事案については、学年を中心に対応した。	A	〇県指定様式による「いじめ・体罰アンケート」を2回、学校独自様式による「学校生活アンケート」を4回（目標は6回）実施し、いじめの早期発見・早期対応に努めた。12月末現在で51件のいじめを認知した。 〇学校評価アンケートにおいて、「いじめを許さない教育を受けている」と回答した生徒が94．2%であった。	A	〇県指定様式によるアンケートや学校独自様式アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に力を入れている様子がよく伝わりました。	生徒指導
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎学校評価アンケートにおいて、「将来の自分の進路について考えることができた」と回答した生徒が85%以上。	〇体験的な学びや教科横断的な授業を通じて、将来の目標設定の手助けを行う。 〇さまざまな講演会を通じて、自分の進路において考える機会をもうける。	B	〇将来の目標達成につながるような授業にむけて、各教科で授業研究を行うことができた。 〇職業講話、キャリア教育講演会を行い、進路意識を高めることができた。	A	〇学校評価アンケートにおいて、「将来の自分の進路について考えることができた」と回答した生徒が90%であった。 〇さまざまな講演会を通じて、進路意識を高めることができた。	A	〇職業講話やキャリア教育講演会等、地域の教育資源を活用しながら、生徒の進路意識を高めようと努力している様子がよく伝わりました。	総務
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●学校評価アンケートにおいて、「健康に食事は大切である」と回答した生徒が90%以上。	〇「食育だより」を年10回発行し、食に対する心構え、それぞれの食べ物がもつ栄養素やその効用、伝統的な食文化について伝えることで、食事の大切さを伝える。	A	〇SDノートの活用や教育相談等をとおして生徒の生活習慣の実態について把握し、3点固定の定着に向けて指導できている。 〇毎月、定期的に「食育だより」を発行し、食の大切さや健康についての意識を高めることができている。	A	〇学校評価アンケートにおいて、「健康に食事は大切である」と回答した生徒が97．4%であった。 〇「食育だより」を毎月発行し、生徒の健康増進を図った。	A	〇生徒たちの食への意識の高さは素晴らしい。 〇食育だより発行など、専門家の適切な情報提供は本当にありがたいです。	保健相談
	〇安全に関する資質・能力の育成	〇学校評価アンケートにおいて、「講演会や防災に関する行事や授業などを通じて防災意識が高まった」と回答した生徒が85%以上。	〇防災避難訓練や、身の周りに起こりうる災害についての授業を通して、防災意識を高める。 〇PTAと連携をとり、生徒・教職員分の備蓄食糧の整備をする。 〇毎月安全点検を行う。	B	〇大雨に関する情報を生徒・保護者にきめ細やかに伝えることで防災意識を高めることができた。 〇PTAの協力を得て、非常食、備蓄水、防寒着を準備できた。 〇各担当による担当箇所の安全点検項目について毎月確認できている。	A	〇PTAの協力も含めた防災教育を実施した結果、学校評価アンケートにおいて、「講演会や防災に関する行事や授業などを通じて防災意識が高まった」と回答した生徒は92．9%であった。 〇毎月安全点検を行い、生徒が安全、安心して学校生活を送れるように環境づくりを行った。	A	〇学校評価アンケートの結果からも分かるように、計画的に安全教育を進めている様子がよく伝わりました。	教務(PTA) 保健相談
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	〇週休日（土日）の公式戦生徒引率業務については、振休措置を行う。 〇部活動休養日を設定し遵守する。 〇ワークライフバランスの観点から、職員の勤務時間管理の意識改革を促していく。	B	〇週休日の公式戦生徒引率業務については、ほぼ全員の職員が振休を取得した。 〇全部活動で月あたり8日以上の休養日を取得している。 〇職員の勤務時間管理の意識改革を促すことで、時間外勤務時間を縮小する取組が必要である。	A	〇教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限は遵守することができた。月平均では前年度から20分程度削減することができた。 〇休暇取得推進日を設定することで休暇取得率は大きく上がった。 〇今年度の取組が一過性のものとならないように、業務改善委員会を継続して開催し、組織的に働き方改革を推進していくことが大切である。	A	〇働き方改革への教職員の意識改革について、小さなことでもできることから実践していることが素晴らしいと思います。	副校長
	〇保護者・地域との連携強化	〇学校評価アンケートにおいて、「学校は、メールや学校ホームページ等で、地域や保護者に情報発信を行っている」と回答した保護者が85%以上。	〇学校ホームページを更新し、本校の教育活動とその成果を発信する。 〇eメッセージ（アプリ配信）を利活用し、学校からの連絡や欠席連絡等、行き違いがないようにする。	A	〇学校ホームページを随時更新し、教育活動の成果だけでなく、日々の学校生活の様子を発信している。 〇学校からの連絡をeメッセージで保護者に送信することで、問い合わせ数が減少している。	A	〇今年度は学校HPに掲載する内容を充実させ、広く一般に向けて学校の様子や教育活動の成果等を紹介した。閲覧数も以前よりも増えている。 〇学校評価アンケートにおいて、「学校は、メールや学校ホームページ等で、地域や保護者に情報発信を行っている」と回答した保護者が89．8%であった。	A	〇学校評価アンケートの結果からも分かるように、積極的に情報発信を行っている様子がよく伝わりました。	副校長・教務

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇生徒が行きたいと思う学校づくり	〇魅力ある学校行事等の企画・実践 〇自己有用感の育成	〇学校評価アンケートにおいて、「本校に来て良かった」と回答した生徒が85%以上。 〇学校評価アンケートにおいて、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と回答した生徒が85%以上。	〇日々の学習活動や学校行事を通し、生徒主体の活動を重視し、適切に評価をする。 〇教育相談等を利活用すると同時に、生徒の変化を敏感にキャッチし、その支援を適切に行えるよう、日々生徒を観察する。	B	〇生徒が学校行事に意欲的に取り組んでいることや、生徒の校外行事への積極的な参加が増え、教師も生徒の頑張りを適切に評価している。 〇定期的に学校生活アンケートを実施し、生徒が相談しやすい環境を作っている。	A	〇学校評価アンケートにおいて、「生徒が本校に来てよかったと思う」という答えが92．7%であった。また「先生はあなた（生徒）の良いところを認めてくれている」という答えが91．5%であった。おおむね目標値はクリアしているが、今後もこのレベルを維持していかなければならない。 〇教育相談や学校生活アンケートで生徒の困り感を把握し、適切な対応ができた。SCと連携を図り、生徒情報の共有を行い、指導を工夫した。	A	〇学校評価アンケートの結果に安心しました。 〇生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりが継続的・継続的に行われている様子がよく伝わりました。	教務

●・・・県共通　〇・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	**〇学力の向上について：本校生徒は入学者選抜適性検査を経て入学してくるため一定の学力を有している。その学力を本校の強みにして、さらに中学3年間で磨きをかけ、高い学力を身に付けさせて武雄高校に送り出す。更には、「探究活動」を軸にし、生徒の興味・関心の幅を広げ、主体的に学びに向かう力の育成や人間性の涵養まで指導レベルを上げる。** **〇心の教育について：いじめ認知は解決への第一歩という考えのもと、いじめ対応を行っており、いじめ認知の件数は良好な結果であった。今後はLHRの時間を要とし、全教育活動を通じて命の大切さを強調し、人権尊重の意識を高めるような指導を展開する。道徳教育や人権教育にも力を入れ、自らを律しつつ、他者と協調し、他者を思いやる心や感性を磨かせるような教育活動に粘り強く取り組む。たとえ時間がかかるとしても、教育活動を通して生徒の心を育てるようにする。** **〇健康・体づくりについて：学校評価アンケートの結果は良好であった。今後は今の指導を継続しながら生徒の健康増進を図っていく。** **〇業務改善・教職員の働き方改革の推進について：教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限は遵守することができた。今後は教職員の適正な勤務時間管理や業務の効率化・精選を更に進め、働き方改革に向けて教職員の意識改革を図る。**